

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.6)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	同志社国際中学校・高等学校	階数	地上3F
建設地	京都府京田辺市多々羅都谷60番1	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	1,100 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,200 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年11月 予定	評価の実施日	2013年6月1日
敷地面積	33,078 m ²	作成者	東畑建築事務所 吉井 和男
建築面積	832 m ²	確認日	〇〇〇
延床面積	2,291 m ²	確認者	〇〇〇



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.4 ★★★★★☆☆☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q のスコア = 3.1		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア = 3.3	Q2のスコア = 3.4	Q3のスコア = 2.7
LR 環境負荷低減性		
LR のスコア = 3.4		
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 3.8	LR2のスコア = 3.4	LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<p>コミュニケーションセンター(図書館)を中心とし、同志社大学交隣館、女子大新島記念講堂に囲まれた景観に配慮し、勾配屋根とレンガタイルを中心としたデザイン構成で調和を図る。既存校舎及び図書館との間のパuffersゾーンを設けることで、生徒の学習環境を保ち、学生同士の交流の場をつくりだし、「中庭と共に成長するコミュニティキャンパス」を目指す。</p>		<p>既存校舎を利用した増築計画である。既存施設である校舎棟・体育館を活用しながら、校舎の増築及び附属棟の整備を行う。今後の学校教育の進展や情報化に弾力的に対応できる施設を目指す。</p>
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<p>合理性と機能性を求め、目で見て、手に触れて優しい形や素材によるデザイン展開を目指す。環境への負荷を低減するために、自然通風・遮熱対策などの施設面での取り組みを行う。</p>	<p>ユニバーサルデザインの視点に立ち、誰でもが気軽に利用できる利便性と安全性を兼ね備えた施設とする。また、清掃や設備の点検がしやすい施設とし学校の長寿命化を図り、ライフサイクルコストの低減に努める。</p>	<p>樹木や花壇を建物際に配置し、開放的で落ち着いた雰囲気を持つ屋外空間を創り出す。中庭には多目的デッキやパーゴラを配置し、景観にも配慮した憩いの場を演出する。</p>
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>自然の恵みを有効活用しながら、費用対効果のある、環境配慮型のエコスクール事業の推進を図る。</p>	<p>自然素材の良さを再発見し、環境保全の視点と子ども達の健康に配慮した、優しい学習環境づくりを目指す。</p>	<p>街路に面する北側は、シンボル性と景観調和に配慮されたディテールと色彩計画とする。象徴的なガラス階段が擁壁に囲まれた圧迫感を軽減する。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される